



会報誌 「ちーたー」

2014年5月号 (Vol.7)

2014年4月30日発行



今月号の内容

■経過報告

- 1 4月交流会 (4月12日)
- 2 ケアラーズカフェ立ち上げ講座 (4月16日)
- 3 拡大理事会 (4月19日)
- 4 その他
 - ・ゆめ応援ファンド助成金贈呈式 (4月11日)
 - ・中央ろうきん助成プログラム2年目助成決定



■5月交流会のご案内

- ・みんなでピザを作って食べよう!
- ・専門職を交えた情報交換など

2014年5月10日(土) 午後2時~5時

会場: マイルドハート高円寺・地域交流スペース

■今後の予定

■投稿欄、その他



<< 経過報告 >>

■4月交流会 (4月12日、於「マイルドハート高円寺」、34名参加)

見学者9名を含め34名の参加で大賑わいでした。見学者は、本人・家族1組、家族2名、鷺宮地域包括支援センター、中野区の介護者の会、介護関係者3名、という顔ぶれで、本人ご夫婦はその後入会されました。

今回は前半の時間を長めにとり、家族組はミニシンポジウム「在宅から施設・病院へ～在宅での介護に限界を感じたとき」、本人組は「ふうせんバレーボール体験」というプログラムで進めました。後半はもちろん恒例のお誕生日会タイムです。



ミニシンポジウムは、主任ケアマネジャーである会員の白岩裕子さんがコーディネーター役を務め、会員の橋口節子さん、若林啓子さん、そして理事長が、発症の頃、在宅介護をあきらめた時、みなさんへのメッセージの3点をテーマにそれぞれの体験を語り、その後、会場のみなさんとも対話しながら進められました。

会場とのやり取りの中では、「まだ自分が看られる



間はデイサービスに出したくない」という奥様に対して、高橋正彦先生から「デイサービスは治療の一環でもあり、まだ軽い内から慣れておくこと、社会とつながっていることが大切だと思う」とアドバイスがあり、さらに先生からは「在宅から一足飛びに施設や病院というわけではなく、デイサービスやショートステイを使いながら徐々に移行していくのではないかと。在宅で看られなくなることに敗北感を持つことはない」とのお話もありました。

また「昨年の夏からずっとショートステイがとれない」という声に対して、地域包括の方から制度上のしくみの説明や「とにかくなぜなのかを詳しく聞くことが大切」「場合によってはケアマネジャーを替える選択肢もありえる」とのアドバイスもありました。(ミニシンポジウムの詳細内容については、近日中にホームページにアップ)

話し手3人が異口同音に言っていたのが、孤立しないように、ということでした。使える制度、社会資源はできるだけ活用して、いろいろな会にも参加してみてください。抱え込まない、煮詰まらないために、ぜひ外とのつながりを持ち続けてください。若林さんの言葉が強く頭に残っています。

■ケアラズカフェ立ち上げ講座 (4月16日、8名参加)

ちいたび会では7月頃から「手作業でつながる交流サロン」を始める準備を進めています。その参考にするため、NPO 法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン主催の「ケアラズカフェ立ち上げ講座」を受講しました。今回は、地域の他の家族会とのご縁を深めるために「新井の介護を考える会」の4名の方たちとご一緒しました。「手作業でつながる交流サロン」については次号以降で詳しく取り上げます。



カフェ立ち上げ講座に参加して 会員 石井智子

会場の「ケアラズカフェ&ダイニング アラジン」は阿佐ヶ谷駅北口から河北総合病院に向かう商店街にあります。お店の前は河北サテライトクリニックその斜め向かいには地域包括支援センターという立地で、座席数15席と狭いながらも明るく気持ちのいいスペースです。

講師は専任スタッフの阿久津さんと森川さん。カフェは誰でも受け入れる。講座は河北総合病院ドクターや看護師や企業などの協力。サロンは娘サロン、介護者のつどい、介護職のつどい、孫のつどい等たくさんの企画があると運営について説明がありました。

ちいたび会としての「カフェ・サロン」のこれからの活動とむすびつけて考えると、まずは当事者、そして介護者、地域、他の障害者、サポーターさん、ボランティアさんなど、多くのパターンを想定して、偏りのない組み立てをしなければならないのではと私は思いました。

「ケアラズカフェ&ダイニング アラジン」では専任スタッフ2人と無償のボランティアさんで運営されているとのことでしたが、長く仕事を続けていってもらうには、公的助成(60歳以上の就労や精神障害者の就労)なども活用していけば、若年性認知症でも残された機能を使い仕事ができるのではないのでしょうか。

誰かの役に立っていることが、当事者も介護者もサポーターさんもボランティアさんに

もとても大事なことだと思います。

「ケアラーズカフェ&ダイニング アラジン」の運営を参考にさせていただき、ちいたび会「カフェ」の立ち上げに協力していきたいと思えます。

後日、ランチタイムに「ケアラーズカフェ&ダイニング アラジン」におじゃましました。高齢の方、片麻痺の紳士、通院が終わられた方、福祉関係の方などが来店されていました。日替わりランチは栄養を考えバランスのよいもの（さけ、きんぴらごぼう、たまねぎ煮、漬物、味噌汁、ご飯、フルーツ）でした。家で一人食べるよりおしゃべりをしながら、聞きながら食べるお昼は楽しいし美味しいとお話をされていました。

森川さんは日々の出来事を日記に残されているそうです。その日記が記録だけではなく、後でとても役にたったりしますと、教えてくださいました。またお会いしましょうとお店をあとにしました。

■拡大理事会（4月19日、於「ちいたび会事務所」、8名参加）

- ・4月交流会の振り返り
- ・ケアラーズカフェ立ち上げ講座の報告
- ・理事会報告
- ・今後の予定について

通常総会、地域理解促進のための講演会、はみ出し企画（田植えツアー）作業サロンの試行実施、施設見学、など



■その他

○ゆめ応援ファンド助成金贈呈式

（4月11日、東京ボランティア・市民活動センター、理事長）

応募116団体の中から18団体に助成決定。今年度は家族会活動が重点テーマであったことも幸いし、ちいたび会も助成団体の中に入ることができました。

助成の対象事業は、「手作業でつながる若年性認知症交流サロン」です。

○中央ろうきん助成プログラム 継続助成（2年目）助成決定

関東エリア1都7県から寄せられた応募総数228団体の中から57団体に助成決定。昨年度に引き続き助成していただけることになりました。対象事業は交流会です。

<< 5月交流会のご案内 >>

日時：2014年5月10日（土）午後2時～5時

会場：マイルドハート高円寺・地域交流スペース

内容：○みんなでピザを作って食べよう！

○本人・家族、専門職を交えた情報交換

○お楽しみイベント

- ・参加費：500円（お茶・お菓子代などにあてます）
- ・交流会終了後に懇親会も予定しています。



<< 今後の予定 >>

■6月交流会のご案内

2014年6月14日（土）14時～、場所はいつもの「マイルドハート高円寺」

■はみ出し企画：

ジョイフル本田買い物ツアー（5月4日、瑞穂店） ※超大型ホームセンター

田植えツアー（5月12日、佐野市）

■通常総会（5月18日(日)午後、中野区鷺宮区民活動センター）

議決権は正会員のみになりますが、会員の方どなたでも参加できます。たくさんの方の参加をお待ちしています。

■若年性認知症専門デイサービス見学：練馬若年認知症サポートセンター

5月24日(土)午前中に見学。若干名希望者を募ります。応募多数の場合は理事会にて決定させていただきます。5月15日までにメール、ファックスで申込みを。

■地域理解促進のための講演会

11月16日(日)午後、中野サンプラザにて。詳細後日

事務局の窓 「ちーたー一時速 100km!!」 Vol.9

初の通常総会を間近に控え、決算、予算、資料づくりにと全力を投入しています。そのため今回の会報誌「ちーたー」は少しやせ気味。次号以降また気合を入れます。

稿 欄

2 つ の 別 れ

会 員 川 村 達

毎年3月になると、関係している東山高齢者会館・野方ことぶき会等で、いくつかの「別れ」がある。本年もあった。さらに本年は新しい別れ、即ち「ちいたび会」での別れが加わった。本会スタート時より献身的に活躍してくれた東洋大学の4人の4年生である。おじさん・おばさん達だけでは、事業は円滑には遂行されなかったと思う。感謝申し上げる。皆、希望する福祉関係に就職されたと聞いている。健康に留意され、頑張っで戴きたい。さて、本年は印象の強い「2つの別れ」があった。

○ある少女との別れ 地元の小学校「緑野小学校」(学校統合前は丸山小学校)より誰が持って来ているのか不明だが、「緑野だより」が届けられていた。昨年3月、可愛い少女が「私がお届けを担当します」と挨拶して届けてくれた。新6年生になるAちゃんだ。以来、月1回の出会いとなった。家人ともどもAちゃんに会うのが楽しみになった。卒業による別れの時が来た。最後は、手紙の往復による別れの挨拶をしあった。将来は、アニメーターになりたいという。頑張っでね。新しい担当は新5年生のH君だ。お母さんが付き添って持ってきた。

○10年目の別れ NPO法人リンク東山が、東山高齢者会館の管理・運営を中野区より受託して、10年が過ぎた。1年目より「太極拳教室」を開催している。10年の間、参加者の出入りはあったが、Sさん(87歳の女性)は、最初から参加している。この教室のみのお付き合いだが、10年間続いている。小柄で少し腰が曲がっているが、元気である。この3月「H市(瀬戸内)にいる長女の所へ行くことになりました」との挨拶を受けた。新しい生活で、体調を崩すことの無いことを願っている。このように子どもさんの所へ行くことになったり、施設に入所のため、野方を離れる高齢者は、周りで増えている。

ご質問、お気づきの点などございましたら、お気軽に下記事務局までご連絡ください。

編集・発行  **特定非営利活動法人
若年認知症交流会小さな旅人たちの会 ちいたび会**

〒165-0034 東京都中野区大和町3-9-22 ちいたび会事務局
ホームページ：<http://chiitabi.jp/> メール：honbu@chiitabi.jp
TEL/FAX：03-3338-6932 担当：高橋昭彦

本交流会は、『中央ろうきん助成プログラム』による助成を受けて実施しています。